

氏名	吳 晨峰
学位の種類	博士(観光学)
報告番号	甲第466号
学位授与年月日	2017年9月19日
学位授与の要件	学位規則(昭和28年4月1日 文部省令第9号) 第4条第1項該当
学位論文題目	中国厦门市・鼓浪嶼における 観光地化に関する研究
審査委員	(主査) 松村 公明 (立教大学大学院) 杜 国慶 (立教大学大学院) 舂谷 鋭 (立教大学大学院) 山下 清海 (立正大学地球環境科学部教授)

I. 論文の内容の要旨

(1) 論文の構成

第1章 序論

第1節 研究背景

第2節 従来の研究成果と課題

1. 従来の研究成果
2. 本論文の研究課題

第3節 本研究の目的と方法

1. 研究目的
2. 研究方法
3. 調査地域の選定理由
4. 調査概要

第4節 論文構成

第2章 廈門市・鼓浪嶼の地理的性格と歴史的背景

第1節 研究対象地域の地域特性

1. 廈門市の地理的性格と中国南東沿岸部の交通革新
2. 廈門市および鼓浪嶼の地域概観

第2節 鼓浪嶼の観光地化前史

1. アヘン戦争以前（～1840年）
2. アヘン戦争以後～中華人民共和国成立（1840～1949年）

第3節 保養地期

1. 保養地の確立
2. 保養活動の停滞
3. 保養地期以降における鼓浪嶼の概観

第3章 日帰り観光地・鼓浪嶼の形成

第1節 竜頭路の変遷と現状

1. 竜頭路の概要
2. 竜頭路商店街形成の経緯
3. 竜頭路の現状（2009年）

第2節 旧竜頭路における商業機能の変容

1. 土地利用形態と機能の変化
2. 建造物の空間利用
3. 商業店舗の構成と経営形態
4. 商業店舗の事例
5. まとめ

第3節 竜頭路の変遷にともなう地域変化

1. 歴史風貌建築の観光利用
2. 観光地化にともなう生活空間の縮小

第4節 小括

1. 観光地化による鼓浪嶼における地域の諸変化（1978～2008年）
2. まとめ

第4章 宿泊観光地・鼓浪嶼の形成

第1節 宿泊業の展開

1. 開業年と分布
2. 客室数規模と分布パターン

第2節 「家庭旅館の島」の形成と特徴

1. 家庭旅館業の萌芽
2. 家庭旅館の経営者と従業員
3. 家庭旅館の区分と特徴（投資・改造・経営）
4. まとめ

第3節 家庭旅館業の発展にともなう地域変化

1. 商業空間の拡大と特徴
2. 歴史風貌建築の利用状況の変化

第4節 小括

第5章 鼓浪嶼における観光地化に関する考察および結論

第1節 鼓浪嶼における観光地化の進展に関する考察

1. 保養地期
2. 観光地形成期
3. 観光地確立期

第2節 鼓浪嶼における観光地化の進展と旧市街地の地域変化

1. 観光地化と行政体制
2. 観光地化と土地利用・主要施設・基幹産業
3. 観光地化と開発／保護
4. 観光地化と地域住民

第3節 結論

1. 研究結果
2. まとめ

参考文献

謝辞

(2) 論文の内容要旨

本論文は、中国福建省・廈門市の鼓浪嶼（コロンス島）を対象地域として、観光地化の進展とともに生じる旧市街地の地域変化を空間的に明らかにすることを目的とする。研究の目的を達成するため、観光地化の進展段階として、保養地期を基点に観光地形成期と観光地確立期の時期区分に従って、9回に及ぶミクروسケールな現地調査によって得られた独自のデータをもとに、鼓浪嶼における観光地化の特徴を詳細に記述し、空間的な考察を試みた。

第1章では、先行研究の整理をした上で、本研究の目的と方法について述べている。先行研究によれば、都市再開発、歴史環境保全、人口移動はそれぞれ観光と深く関連している。しかしながら、近年の中国においては観光地化の進展が顕著にみられるものの、観光地化と地域変化の関わりを実証した研究は蓄積されていない。そこで、現代中国において地域変化が急速に進行する都市の旧市街地を対象として、旧市街地の観光地化の過程と地域変化の関連性について考察する。そのために、研究対象地域として廈門市の鼓浪嶼を選定した理由について述べている。

第2章では、廈門市の地理的位置と地域概観に触れた後、観光地化前史として、アヘン戦争から中華人民共和国成立に至る時期における鼓浪嶼の動向を整理するとともに、観光地化の基点となる保養地期の様相について詳述している。観光地化前史に描かれた共同租界地としての鼓浪嶼と華僑との関わり、さらに中華人民共和国成立以降、保養地としての鼓浪嶼の位置づけが、改革開放以降の急速な観光地化を引き起こす基盤になったことを指摘している。保養地期の鼓浪嶼における観光客は、保養を目的とした党・軍の高級幹部と、海水浴を楽しむ廈門市民によっておもに構成されていた。

第3章では、改革開放以降の鼓浪嶼が、廈門本島に居住する廈門市民の日帰り観光地として急速に成長した時期を観光地形成期と位置づけ、鼓浪嶼の主軸街路である竜頭路に着目して鼓浪嶼の地域変化を論じている。保養地期には住宅地であった竜頭路沿線の土地利用は、観光地形成期をとおして土産物店を主体とする商業的土地利用に変容した。この時期には、歴史風貌建築の観光利用が促進されるとともに、工場の転出、住宅の撤去、公共施設の本島移転などが進行し、これらにもなって地域住民の転出と外来人口の流入を招いた。観光地形成期の鼓浪嶼では観光空間が顕著に表れる一方で、既存の鼓浪嶼住民を取り巻く生活空間が縮小したことを、土地利用調査と聞き取り調査によって指摘した。

第4章では、2009年以降の鼓浪嶼が、宿泊施設の展開によって宿泊観光地に変貌を遂げる時期を観光地確立期と位置づけ、宿泊施設の主体である家庭旅館の特徴に着目して鼓浪嶼の地域変化を論じている。2009年を境に家庭旅館が急速に増加した理由は、敷地が広大な旧別荘は宿泊施設として適しており、歴史風貌建築を保護する有効な方法であるとして、地方政府が鼓浪嶼の旧別荘を家庭旅館に改造することを促したことによる。これにより、外部の民間資本が急速に鼓浪嶼に流入し、家庭旅館業に続々と参入するようになった。家

庭旅館の経営者ならびに従業員の出身地や履歴については、詳細な聞き取り調査をもとに記述するとともに、建築様式別に家庭旅館を分類し、分類ごとに家庭旅館の特徴について述べている。観光地確立期の地域変化として、商業空間が時空間的に拡大したこと、旧別荘をはじめとする歴史風貌建築の家庭旅館への転用とそれによる保護が進んだこと、観光地化と結びつく業種の増加が顕著になったことなどが挙げられる。一方で、転出した地域住民の代替として外来人口の流入が増大し、鼓浪嶼はいわば「従業員の島」になったと述べている。

第5章は考察と結論の章として、観光地化の進展とともに生じる鼓浪嶼の地域変化を、土地利用、主要施設、基幹産業、開発／保護、地域住民（転出者、転入者）を軸として提示するとともに、鼓浪嶼における観光地化の過程を模式図として表した。

鼓浪嶼では、観光地化の進展によって静態的な歴史的町並みから動態的な「観光の島」へと転換し、その過程において日帰り観光地から宿泊観光地へと性格を変化させてきた。旧市街地を特徴づける歴史風貌建築は、官民による開発と保護の主要な対象になり、積極的な観光利用をとおして観光地化の進展を支え、新たな雇用の基盤となることで観光業に関連する住民の転出入を促進した。

観光地理学および観光研究における本研究の意義は、まず、中国の都市的な市街地における継続的な聞き取り調査によって観光地化に関するオリジナルデータを収集した点である。次には、従来は観光行動や観光形態の形容に用いられてきた「日帰り観光」や「宿泊観光」の捉え方を着地側に応用し、これらを観光地の段階的な進化として指摘した点にある。最後に、観光地化と地域変化を鼓浪嶼の地誌のなかに位置づけて研究を進めた点であり、観光地をフィールドとした地誌的研究としての成果もまた提示することができた。

II. 論文審査の結果の要旨

(1) 論文の特徴

本論文は、中国における都市の旧市街地を対象に観光地化を扱った観光地理学研究として貴重な成果である。観光地化の進展段階として、保養地期を基点に観光地形成期と観光地確立期の時期区分に基づいて、およそ 130 日間に渡る現地調査によって得られた独自のデータをもとに、観光地化の特徴を詳細に記述し地図化した。まず、観光地形成期では、街路網の主軸となる竜頭路を対象に、商業店舗が増加する過程と生活空間の縮小について精緻に描き出している。その上で、2000 年代末以降、旧共同租界地時代からの歴史的建造物が家庭旅館として再生する様相を、国・地方政府の観光政策と民間・個人の参入に注目しながら詳述し、鼓浪嶼が日帰り観光を主体とする観光地から宿泊観光を主体とする観光地へと転換したことを実証した。旧市街地の中に旧別荘群という「空洞」が存在したこと、さらには、これら歴史風貌建築を保護するため、外部資金の導入をとおして旧別荘が家庭旅館として再生し活用される過程を詳細に記述している。

その結果、観光地化とともに生じる地域変化を、土地利用、主要施設、基幹産業、開発と保護、住民の転出入の 5 つの軸に沿って明確に示すことによって結論とした。同時に、観光地化からみた鼓浪嶼の地域的特色が、港湾都市としての開放的な地域的性格、地方政府による観光政策の直接的な反映、華僑を主体とする民間・個人による建物の所有にあることを導き出した。

(2) 論文の評価

廈門市鼓浪嶼が、旧共同租界地を起源とする静態的な歴史的街並みから動態的な「観光の島」へと転換し、その過程において日帰り観光地から宿泊観光地へとその地域的性格を変化させたことを実証的に明らかにしたことは、これまでの観光研究の蓄積に新しく重要な貢献を加えるものと評価できる。とりわけ、観光地形成期と観光地確立期の各段階における観光地化の過程とメカニズムを、おもに商業店舗と家庭旅館の経営者のみならず従業員にまで対象を広げて詳細な聞き取り調査をもとに明らかにしたことは本論文の優れた特質である。同時に本論文の詳細な記述は、学位申請者が鼓浪嶼の地域住民と密接な関係を築くことによって、中国の都市における調査環境の制約を克服した証左として迫力がある。さらに保養地期を基点として描かれる鼓浪嶼の地誌的記述もまた豊かである。

以上から、審査委員会は、本論文の観光研究としての独自性と研究上の貢献を評価し、博士の学位に相当するとの見解で一致した。